

平成 29 年度  
第 3 回酒田市総合教育会議

議事録

平成 29 年度 第 2 回酒田市総合教育会議

1 日 時 平成 30 年 2 月 19 日 (月) 開会：13 時 35 分 閉会：15 時 35 分

2 場 所 酒田市役所 7 階 703 会議室

3 出席者

(構成員) 酒田市長 丸山 至  
酒田市教育委員会  
教育長 村上 幸太郎  
委員 浅井 良  
委員 岩間 奏子  
委員 渡部 敦  
委員 神田 直弥

(事務局)	総務部長	本間 匡志
	企画振興部長	阿部 勉
	教育委員会企画管理課長	長村 正弘
	教育委員会学校教育課長	齋藤 司
	教育委員会社会教育文化課長	阿部 武志
	教育委員会スポーツ振興課長	富樫 喜晴
	教育委員会図書館長	岸谷 英雄
	教育委員会企画管理課課長補佐	池田 裕子
	教育委員会企画管理課企画管理係長	関口 誠

4 傍聴者 1 名 (報道関係者 1 名)

5 協議事項

- (1) 本市の教育を取り巻く諸課題について
- (2) その他

6 議事経過の概要

次のとおり

## 1 開会

(企画管理課課長補佐)

定刻になりましたので、これより平成 29 年度第 3 回酒田市総合教育会議を開会いたします。本日の会議の進行を務めさせていただきます、企画管理課の池田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。本日 1 名の方から傍聴の申出をいただいておりますので、ご報告いたします。なお、本日の資料は傍聴者へ配布させていただくことといたします。それでは最初に、丸山市長からごあいさつをお願いいたします。

## 2 あいさつ

(丸山市長)

皆さま、大変お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。第 3 回目の総合教育会議ということです。私としてはこの総合教育会議、一生懸命に会議を開催して皆様の意見を聞かせていただいているのですが、1 月でしたでしょうか、文部科学省の担当官が総合教育会議の運営について話を聞きたいということで、色々とヒアリングに参りました。話の端々を聞いている限りでは、酒田のこの取り組みというのを大変評価をいただいているのかなということで、大変嬉しく懇談をさせていただいたのですけれど、そういったこともあった中で、教育委員会の制度が変わり、これまで総合教育会議でいろいろなテーマを取り上げて、皆様のご意見を伺わせていただき、施策の中にある程度反映をさせてきたつもりでいるわけでありまして、やはり、教育委員の皆様のお考え、そういったものを教育行政にしっかり活かしたいという面もございまして、また、現状を教育委員の皆様からも十分把握していただきたいという、そういった面もあって双方向、よく対話という言葉がでできますけれど、そういった意味では、この総合教育会議は常にいい機能を発揮してしているのかなと、そういった思いで受け止めているところでございます。

今日は、今年度の最後ということになりますけれども、協議のテーマとしては酒田市の次期総合計画と大綱の関係ですね。これについて少し意見を伺っていただきたいと思っております。それからもう 1 つは、学校・家庭・地域の連携・協働についてということで、こちらについても少し意見交換をしたいと思っております。この次期総合計画との関係についてですが、これまで 2 か年をかけて、来年度以降 10 か年の酒田市の総合計画を策定してまいりました。3 月議会で上程をして、議決を得て 4 月から発効ということになるわけですが、酒田市の教育も含めたまちづくりの計画の中の一番の指針ということで、これに基づいてこれから市政をやっていく。そういった大きな、重みのある役割を果たす計画であります。そのことについてまず、教育委員の皆様から少しご理解をいただくとともに、あわせて、酒田市教育等に関する施策の大綱、これも 31 年度までの大綱になっているのですが、今回酒田市総合計画が新しくできるということにあわせて、見直しをかけていくか、そういったことについてご意見を聞かせていただければと思っております。

もう 1 つ次のテーマであります学校・家庭・地域の連携・協働については、この地域、なんといってもひとづくりがまちづくりの根幹であろうというなかで、学校教育というセクションといわゆる社会教育、あるいは家庭教育、そういったものも関わり合い、それがどうあるべきか、もっと密接に関わってもいいのではないかという思いがございまして、そのことに

ついて少し意見交換をさせていただきたいと思います。更に言いますと、平田地域の地域協議会という組織があるのですけれど、学校側の協力があまり得られないといったお話が少しあったりしたものですから、そういった面では、学校と地域との関わりというのはやはりもっと深めていかなきゃいけないのだなと、私が松陵小学校のPTAにいて、村上教育長が教頭先生だった頃には、確かに松陵のコミュニティ振興会ともっと密接な係わり合いをもっていったような気がしたものですから、それを全市的に仕組みとして構築する必要があるのかなという思いもあって、このあたりも少し意見交換をしたいなと思いました。とりわけ協働という言葉がでてまいりますけれど、今回の私どもの新しい総合計画の一丁目一番地、最初に出てくる大項目が住民との協働によるまちづくりです。高速交通網の整備でもなければ、産業の振興でもないのですね。そういった面ではやはり学校・家庭・地域の連携・協働というのは本当に大事なことなのだなと、そのことが産業振興だったり観光だったり福祉だったり、全て影響を及ぼしてくると、私はそのように思っております、そういった意味でも教育委員の皆様との意見のやり取りの中で教育行政に活かしていけるのかということ、意見を聞かせていただければなと思っております。結びになりますけれど、30年度予算案がまとまりました。これから議会に提案をしていくわけでありまして、私としては、教育に関する予算、3か年の予算の動きを見てると教育予算だけはプラスプラスで増えているのですね。他のところはマイナスが出ていたり、単年度的にはプラスになったりもしているのですが、3か年プラスで伸びているというのは教育予算だけなのです。そういった意味では、私の思いそのものが予算に反映されているということで、意図したものではなかったようなあったような複雑な気持ちではあるのですが、結果として教育予算重視でやってきたことについては、自分の思いのとおり予算編成ができているなという思いがございます。そういった意味では、これからも総合教育会議を通じて教育委員、教育長と十分に意見交換、すり合わせをしながら予算編成、予算の執行に努めてまいりたいと思いますので、引き続きどうぞよろしく、30年度もよろしくお願ひしたいということで、あいさつにかえさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

(企画管理課課長補佐)

ありがとうございました。続きまして、村上教育長からごあいさつをお願ひいたします。

(村上教育長)

ただ今、丸山市長からごあいさつを頂戴しましたけれども、総合教育会議、今年度3回目ということで、内容も充実したものを取り上げるとともに精力的に開催をしていただいていることに、あらためて感謝を申し上げたいと思っております。お昼のニュースは市長の予算について、記者会見が流れていたわけですが、市長が話されたなかに、市民に向かってメッセージとして届いているところだと思うのですけれど、10款教育費については、市長からお話があったとおり他の款に類をみない伸び率を示しております、15%ほど伸びているようなのですけれど、そのときそのときの事業の持ち方ということもあるのですけれど、右肩上がりでここまできているということは、本当にありがたいことだと思っております。また、新規の事業の動き、例えば小中高のものづくりに対する授業のおこし

方について、これは市長と本当に膝を交えて今後どうしたらいいのか、人材育成ですけれど、そういったところの相談をした結果でもありますし、それから強いイニシアチブをとっていただいているのが、文化芸術の推進に関わる、非常に大きな動きでございまして、単年度予算ではなく、ここ10年を見越したもの。教育委員会としては、非常に大きな動きということになっていくのかなというように思っているところです。

こうした背景の中で、5年間という期間の途中で、新しいまちづくりの方向性をうけて大綱についての意見を聞いていただくというような機会を得られましたことを、本当に、大変ありがたく、率直に意見を申し上げさせていただきたいと思っております。もう1つは学校・家庭・地域の連携・協働でございますけれど、市長からお話いただきましたが、総合教育会議でいわゆる社会教育、生涯学習を含めた連携について話題にするということは大変ありがたいことです。2月28日に社会教育委員の会議がございまして。そうしますと、間接的にはありますけれど、市の考え方、そして教育委員会、この会議の考え方、話し合われたことをそのまま社会教育委員の会議に引き継いで、なお議論を深めようという心積もりであります。そういった意味では、この総合教育会議が教育委員会だけではなく社会教育委員も含めた教育全般に関わる架け橋となっていくということを期待しておりますので、このことについても活発な話し合いができればいいなとも私思っているところでございまして。今日はよろしくお願ひしたいと思ひます。

(企画管理課課長補佐)

ありがとうございました。これより、協議事項に入ります。ここからは市長に座長をお願いいたします。発言の際には皆様座ったままでお願いいたします。それではどうぞよろしくお願ひいたします。

### 3 協議

(丸山市長)

あいさつの中で触れればよかったのですが、今年の1月4日に酒田南高等学校と連携協定を結んでいるのですが、サントペテルブルクに2月7日から行ってまいりまして、南高校の齋藤理事長とトークをしてもらいました。文化芸術も含めてですけれど、青少年教育のルール、小学校、中学校、高等学校も含めた形でこれからサントペテルブルク市、あるいはエルミタージュ美術館との交流をぜひ活かしていきたいなということで、交流の第一弾として行ってまいりました。背景には啓翁桜をエルミタージュ美術館に提供していったという経緯もあって、そういったことをきっかけに、そういった人的な交流をしようということで行ってきたわけですが、このようにいろいろな華やかな場面で、注目を浴びて帰ってきたということで、写真集を作りましたので、参考までにお渡しをさせていただきました。ご覧いただければと思います。本当にサントペテルブルク、エルミタージュ美術館、行った方はいらっしゃいますでしょうか。非常に刺激的なまちだなと思ひましたし、美術館も素晴らしかったです。ああいった文化水準、あるいは、非常に紳士的なまちだと思ひましたので、この交流をとおして地域の青少年がもっと活躍できる人材として成長してもらえればいいかなと、そういった期待をもって、南高校の齋藤理事長にお話をしながら帰ってま

いりました。

それでは、早速協議に入らせていただきます。最初に、本市の教育を取り巻く諸課題についてということで、次の酒田市総合計画と酒田市教育等に関する施策の大綱についてということテーマにさせていただきました。先ほども言いましたように、今度の酒田市総合計画と教育大綱については、策定した時期にずれがあるものですから、いろいろな意見をいただきながらではありますけれど、できれば私どもとしては平成30年度が総合計画の初年度でありますから、それにあわせて大綱も改定して、同時に進むような整合性のとれた計画、あるいは大綱として進めていきたいという思いがあるものですから、今日皆さまからご意見をいただきたいと思った次第であります。そういった意味で、総合計画の概要と、そして現在の大綱との違い、かみ合っていない部分等についての説明をしていただいたうえで議論いただきたいと思っております。それでは、事務局から説明願います。

(企画振興部長)

企画振興部長の阿部と申します。最初に私から、来年度から始まります、次期の総合計画につきましてお手元の資料でA4の資料とA3の資料、この2つで説明をさせていただきたいと思えます。A4の資料が基本構想の説明になりまして、こちらが10年間の基本構想、A3版が5年間の基本計画という内容になっております。資料2ページをお開き願います。2ページに総合計画の構成が載ってございまして、10年計画である基本構想は、最初に目指すまちの姿、それから章が基本構想、基本計画は政策と施策がその構成となつてございまして、次のページをお開き願います。その構想、計画をつくるにあたりまして、市民の皆さまから数多くのご意見をいただきました。昨年度、今年度と2年間で12回開催をしまして、市民と行政と一緒に考えた総合計画となつてございまして、次に5ページをお開き願います。基本構想のめざすまちの姿、4点ございまして、産業交流の盛んなまち、五感をもてなす感動のまち、先ほども言いました対話を通じた市民の参加があふれるまち、それから4つ目が住み続けたいと思えるまちということになってございまして、それを実現するための合言葉としまして、共に創るということ合言葉にございまして、次のページをお願いいたします。8ページ、これらめざすまちの姿の実現に向けた目標の設定を大きく3つ掲げてございまして、1つは人口減少の抑制、2027年に95,000人程度、それから市民所得につきましては、現状の260万円から317万円、酒田に住み続けたいと思う市民の割合を80%以上としてございまして、次のページをお願いいたします。これらを実現するための目標となるデータでございまして、まず、人口の推計につきましては、①の(ア)の部分でございまして、一番左の部分酒田市の総人口、1980年ですから昭和55年ですが、125,000人でございまして、今の推計でいきますと一番右側、2040年で71,170人になってまいります。そのときの0～14歳の年少人口が21.7%から9.4%まで落ち込んでまいります。生産人口につきましては67.4%から48.1%、65歳以上の高齢人口につきましては10.9%から42.5%まで高齢化率が上がっていくという推計でございまして、それを5段階の人口でグラフにしたものが(イ)でございまして、ピラミッド型からつぼ型という形になりまして、人口が減っていくというような構図になっているということになります。右側の(ウ)のところですが、青が自然増減、橙色が社会増減を表してございまして、平成8年、9年のところで自然増減がマイナスにシフトしたということ、

また平成の 20 年、21 年頃に社会減を自然減が上回るような形になってきたということになってございます。

こういった推計と実績を踏まえて、酒田市の人口ビジョンを平成 27 年に策定しております。まち・ひと・しごと創生総合戦略という戦略を国と県と一緒につくったわけですが、その際につくった人口ビジョンでは青色のグラフと黄緑色のグラフ、橙色のグラフということで、何もしなければ人口が 47,000 人減っていくが社人研の推計、パターン①、パターン②ということで何らかの施策をした場合に人口を抑制するというのがこのグラフになってございます。酒田市ではこのパターン②を採用しております。若い世代の社会増減が 2025 年までもう 7 年ぐらいまでに入出りが均衡して、その他の世代も 2040 年までに均衡するものと仮定した場合という、そういった人口推計となっております。現状では 18 歳で高校卒業後に 6 割が県外に出ていってしまって、半分しか戻っていないという実態がございまして、これを 25 年までに均衡しないとここまで減ってしまうという推計になってございます。そういったことから、10 ページの一番下のところより、10 年計画の最終年である 2027 年には人口 95,000 人を確保することを目指してまいりたいというように思っているところでございます。

次のページをお願いします。もう 1 つの目標であります市民所得につきましては、具体的に数字を載せておりますのが、酒田市現状のところ 260 万 5 千円という数字と、一番上に黄色の折れ線グラフがありますが、これは山形市の所得でございまして、山形市が 300 万円となっております。市内の総生産の 70% が市民所得に配分されているというように今のところ言われておりますので、それを仮定した場合の 2022 年の 1 人あたりの市民所得の目標を 317 万にしたいと思っているところでございます。

12 ページが 3 つ目の目標であります酒田市に住み続けたいと思う市民の割合ということで、昨年 1 月にアンケート調査を実施しました。1,000 名の方から回答をいただきましたというのが 12 ページでございまして、次のページをお願いいたします。(ウ) でアンケートの調査結果がありまして、住み続けたいとどちらかといえば住み続けたいの合計が 78.2%、その下、男女別の「住み続けたい」が 78 と 77%、注目すべきは右側なのですが、「移りたい」という年代、20 歳以下が 25.9%、30 代が 20.4%、40 代が 19.7% というように、若い年代ほど移りたいと思っている傾向がございまして、こういったことから酒田で心豊かに暮らすということを選択する若者を増やしていくということが、人口減少を抑制するという大きな柱になるというようにこの構想の中では組み立てているところでございます。

最後のページが政策の体系を表したものになってございまして、章のところまでが基本構想、政策の 1・2・3 とあるところが基本計画となっております。もう 1 つの資料、A 3 の資料をご覧ください。総合計画、基本計画の中で教育に関する部分をピックアップした資料になってございます。教育の部分につきましては 1-3 の「公益の心を持ち明日をひらく子どもたちを育むまち」と、次のページに 1-4 ということで「学びあい、地域とつながる人を育むまち」という、この 2 つが基本計画、教育に関する基本計画になってまいります。資料の右上に、みんなで考えようわたしにできることということで、市民としてどんなことができるのか、したらいいのかということをお話しました市民ワークショップのなかで、市民の皆さまからご提案をいただいたものを目標として掲げていくところでございます。全体的に見方としましては、現状における課題が左側になりまして、課題に対する今後の方向性

と主な施策を右側に対比するような形でお示ししております。具体的な計画の部分につきましては、企画管理課長よりこの後、酒田市教育等に関する施策の大綱の部分の資料のなかで、対比をさせながらご説明させていただきたいと思っております。簡単ですが、以上でございます。

(企画管理課長)

企画管理課長の長村です、よろしくお願いいたします。それでは私からお手元の資料、総合教育会議資料1につきましてご説明をさせていただきたいと思っております。酒田市教育等に関する施策の大綱でございますけれど、資料の右側に記載してございます。こちらにつきましては、その次のところに参考①ということでもありますけれど、ご覧のとおり総合計画と教育振興基本計画をベースに構成をされておまして、大綱につきましてもそれを踏まえてまとめているところでございます。もとに戻っていただきまして、大綱の計画期間でございますけれども、平成27年度から平成31年度までの5年間としてございますけれど、今回のように現在策定中の新たな酒田市総合計画との整合を図るために見直しについても想定をしているところでございます。今回の次期総合計画につきましては、先ほど企画振興部長からご説明があったとおり、平成30年度から2027年度までの、10年間の基本的な方向や重点的に取り組むことについて示していくこととなりますけれど、教育に関する今後の方向性についても資料の左側の表に示しているとおおり、新たな視点を加えているところでございます。

それでは、左側の表についてご説明させていただきたいと思っております。次期総合計画のなかでも継続していく方向性については、表に大綱との関連という項目をつくりまして、そのなかで大綱の方針の項目を示しているところでございます。矢印を使って大綱と結び、関連性をわかりやすくしたつもりでございます。関連する項目につきましては、継続ということもございましてご覧いただきたいと思っておりますけれど、説明については、新たな視点を中心に説明をさせていただければと思っております。

最初に、第1章政策3の「公益の心を持ち明日をひらく子どもたちを育むまち」でございますけれど、こちらについては、いのちの教育の推進、確かな学力の向上、豊かな心と健やかな体の育成、学校・家庭・地域との連携、学校施設の整備、地域の教育機関との連携ということで、6つの項目が挙げられております。このなかで新たな視点があるものにつきましては、まず1つは確かな学力の向上として、一貫教育の検討を踏まえて義務教育9年間を見通した教育を推進することが挙がっております。次に豊かな心と健やかな体の育成といたしましては、小中高等学校と連携をし、公認スポーツ指導者や審判員等の計画的養成を図り、トップアスリートの育成に努めることが加えられているところでございます。

続きまして、中段になりますけど第1章政策4の「学びあい、地域とつながる人を育むまち」には、社会教育の振興、文化芸術の推進、知(地)の拠点としての図書館へ、一人1スポーツの推進ということで大きく4つの項目が挙げられてございます。このなかで新しい視点が盛り込まれたものとしたしましては、2つ目の文化芸術の推進といたしまして、文化芸術推進計画の策定、文化芸術基本条例の制定を視野に入れながら、まず1つが総合的に文化芸術の推進に取り組み、自由で多様性を認める心豊かな市民生活の育成と、誇りの持てる酒田らしさの創造を目指すことが挙がっております。2つ目といたしましては、文化芸術が地域間における相互理解を深める上で重要な役割を果たすことに鑑み、文化芸術に関する情報



を広く国内外に発信し、交流することが挙がっております。大きい項目の3つ目のなかに知（地）の拠点としての図書館へにつきまして、1つ目といたしましてライブラリーセンターの整備において、市民の知的好奇心、生活・ビジネス・学習などの課題解決など多様なニーズに応え、人が集い、交流する知の拠点としての図書館を目指すこと。2つ目といたしまして光丘文庫所蔵資料については、ライブラリーセンターとの連携を含め、積極的な利用を進めるということで、ライブラリーセンターに関連して新しい項目が追加されております。それから最後の一人1スポーツの推進につきましては、スポーツボランティアの人材育成や企業スポーツの支援を通して、また、東京オリンピック、パラリンピックのホストタウン登録を契機に、「する」「みる」「ささえる」スポーツの参画人口の拡大を図ることが新たな視点として加えられているところでございます。次期総合計画のなかの教育関係につきましては、そのように視点として新たな視点が加えられているところでございます。このような視点を見ていただきながら、大綱のあり方についてご議論いただければと思います。簡単ですが私からの説明は以上でございます。

（丸山市長）

ということで、総合計画、この膨大な計画をバツと説明して大綱とのすり合わせについて皆様から意見をいただくというのは、なかなか簡単ではないのかと思いますが、この資料もよくできてまして、新たな視点ということから矢印が出ていないということは、大綱の表現もあるのですけれども、大綱と次期総合計画が少しあっていないということが見たとおりのわかるのかなと思います。そこで、気づいた範囲で結構ですけど、何か今後の大綱の示し方というか、ご意見をいただければありがたいなと思います。特に総合計画のなかで、図書館というものの位置付けですね、これは教育機関として大変重要な意味を持つ機関ということで、駅前のライブラリーセンターの整備が、3か年4か年かかりますかね。整備するわけですけども、総合計画の中では、先ほどもお話あったと思うのですが、それが大綱のどこにも載ってきていない、そういった意味では少し意見をいただきながら大綱を、既存の内容で、これは少しおかしいかなというところでも結構ですので、ぜひご意見を聞かせていただければありがたいなと思うところでございます。少し眺める時間も必要なかもしれませんが、限られた時間の範囲でご意見がありましたら、ここはどうでしょうか、教育委員会の中身、教育行政の中身、一番知っていらっしゃる浅井先生から声を出してもらおうとですね、非常に他の皆様も声を出せるのではないかなと思うので、浅井先生いかがでしょうか。

（浅井委員）

1つは地域の教育機関との連携についてです。小中学校と高等学校や大学等と連携し、本市を支える人材を育てます、このことにも関わってなのですけれども、過日、ある市民の方からお話いただいたのですが、新聞に連載があった鶴岡の先端研、山大工学部もありましたが、鶴岡の先端研で鶴岡からも世界的な科学者を育てていこうということになって、地元の高校生を対象にした特別研究生の制度などもやっているというのもあって、それがかなり成果をあげているというような話が新聞に載っておりました。山大工学部でも地元の興譲館高校でイノベーター育成塾みたいなことをやりながら、子どもたちに最先端のものを触れさせてあ

げること、課題研究をさせて、それを最後に英語でまとめて発表会をするというようなことで、かなり大学と高等学校の連携というようなことに先進的に取り組むという、そのようなことが新聞に掲載されて、そのある方からそのようにやってるのに酒田はどうですかという問いかけがあったので、酒田は酒田でやっていますよとお話しました。公益大ともいろいろな事業をやっているわけですが、総合教育会議のテーマ、前年度でしたか、公益大と教育委員会及び学校との連携について話し合いがあったわけですね。ただ、やるべきことを考えるに、教育委員会と公益大との連携事業といったものについては、例えば宿題面、夏休みの宿題を学生が教えるとか、それから放課後に中学生に、公益大の学生たちが勉強を教えてあげると、それから英語もありましたよね。英語の講座、そういった部分もあるのですが、大学と高等学校、光陵高校とか東高とか西高とか、高校との連携事業で人づくりに資するようなものがあるかなといったときに、私は少し考えられなかったものですから、そういったことは酒田は手薄かなと思っていたのですが、地域の教育機関との連携というところを考えたときに、もっともっと公益大の資源を活用しながら、小中だけでなく高校にも、高校との連携も密にしながら、人づくりといったことを進めていくことはできないかと思ったところでした。

また、ものづくりというのに対してですけど、中村ものづくり事業というのを酒田市教育委員会ではやっておりますよね。小中でやっておりますけれど、今度は来年度から新たに新事業として小中高連携のものづくり事業も始めるということで、そういったことも1つの契機になるのかもしれませんが、もっと高等学校と大学との連携といったことも含めながら、そういったことも重視しながら、酒田市のひとつづくりに資するようなこともやってほしいと、大綱にどういったように入ってくるのかわかりませんが、そんなことも考えたのでした。

それからライブラリーセンターのことについてなのですが、どうしても学校サイドとの関連について、お話させていただきたくるのですが、やはり、放課後に児童生徒が、多く図書館を訪れる、いい意味で子どもたちがたむろする、そんな図書館であってほしいなという思いがあります。土日だけでなく平日も子どもたちがそこにいる、いっぱいいるというようなそんな状況があればいいなと思います。例えば小学生の場合だと、子どもだけで学区外は行ってはいけませんよとか、そういった学校の決まりのせいで浜田学区の子どもしか来ていないということになるかもしれません。そんなことではなくもっとオープンにそういったことは考えてほしいし、また、中学生においては部活があるので、なかなか図書館に行きたいけど行けないというような状況もやめてほしいと思います。また、ライブラリーセンターと学校図書館との連携を、より強めてほしいという思いがあります。現在の中央図書館と各学校との連携については、はっきり言ってあまりやれておりません。新しいライブラリーセンターができるのですから、連携についてはもっともっとやってほしいと思います。先週教育委員会があって、コミュニケーションポートの整備実施計画の素案が示されました。その中で小中高それぞれの年代別の興味関心に応じた図書館事業をやっていきましようとか、学校の図書委員を対象にした図書館の体験活動や、ワークショップをやってみましようとか、いろいろなことが計画されておりました。そういった新しい図書館と学校図書館との連携については大いに期待しているところであります。

少し話がずれるかもしれませんが、毎年全国学力・学習状況調査をやっていますが、学習状況調査に家庭生活に関わる質問というのがあって、そのなかに読書は好きですかといった質問があります。酒田市においては、読書が好きですかといったところにおいては小中とも非常に高いのですよね。それも毎年なのです。私は大変喜ぶべきことだと思っております。学力の点数にだけ目がいってしまって、なかなかこういったことに目がいかないところもあるのですけれど、これからの新しい図書館にも非常に関わってくるのではないかなと思っております。なぜ好きであるといった割合がずっと高いのかなといったことを、教育行政の立場から考えてみると、1つは平成4、5年の頃に、読書指導といった部分を学校教育課では非常に重点的に取り上げたのですよね。普通は指導の重点というと、大体学習指導と生徒指導と、それから保健安全指導と3つで取り組むのが普通なのですけれど、それに酒田市はあえて読書指導というのを取り上げて4つやってるのですよね。それを20年間以上ずっとやっている。このことが理由の1つではないかと思えます。それから2つ目として、これも平成の初め頃だったと思うのですけれど、図書専門員を酒田市の予算で各学校に配置していただいた。このことも大きな意味を持っていて、読書好きの子どもたちが酒田市には多いのではないかなと思っているところです。そこで、少しお願いになるのですけれど、今以上に、子どもたちが読書を好きになって、そして新しい図書館、ライブラリーセンターにたくさん子どもたちが来るといったことを願うのであれば、今以上に図書専門員の職責を重要視して、図書専門員の勤務時間数の増といったこともぜひ考えてもらいたいと考えております。

最後に1つ、今気づいたことですが、次期総合計画の「公益の心を持ち明日をひらく子どもたちを育むまち」の今後の方向性と主な施策に、確かな学力の向上というのがあって、その成果指標が全国学力・学習状況調査における各教科で好きと答えた子どもの割合を増加させるです。確かな学力の向上の成果の指標として、各教科を好きと答えた子どもの割合の増加だけでいいのかといったことを、少し疑問に思ったところです。

(丸山市長)

はい、ありがとうございます。最後の各教科を好きということについてですが、これについて教育委員会事務局より何か回答ありますか。

(学校教育課長)

この教科を好きと答えられる子どもたちの増加、増やすという部分については大分議論したところでございます。全国標準を上回るとか、そういった表現も視野に入れて議論してきましたが、逆に目指すところとして全国標準を越えればよろしいのかという、そのような考え方も含めて議論したところです。私たちが進めるべきところは、この教科が好きと答えられる子どもたちを、基本的な考え方としては、この基準までくればよいとかそういった判断をするということではなくて、基本的に増やし続ける。今年度よりも来年度、来年度よりもまた次年度に向けていかに子どもたちが教科を好きであってくれるかということを目指して、増やし続けるというそういった意味合いも含めて、二転三転と変更しながらここに持ってきた次第です。全国標準を上回るとあえてしませんでした。そういった考え方で議論して設定

した部分でございます。

(浅井委員)

ただ、これは一般の市民に公開されますよね。教職員だけが目を通すような冊子ではないですよね。そうしたときに、一般の市民の方々がそれで納得できるのであれば、それでいいですけど、どうなのかなという疑問を持つ方もおそらくかなりいるのではないかと思うのですが、いいとか悪いとかではなく言わせていただきました。

(丸山市長)

狙い目としては、全国標準以上にもっていくというベースはあるのだけれども、表現方法だけこういった表現ということで設定しているのだろうと見ていました。先端研ですとか、公益大との連携の話をいただきましたし、図書館の話もでしたけれど、見てのとおり図書館のことは何も大綱の中にありませんので、少し整理をしていければと思いました。それでは、渡部委員何かありますか。

(渡部委員)

次期の酒田市総合計画が目指すまちの姿を拝見させていただきまして、今回4つの目指すまちの姿、そして目標設定、数字で正確な目標設定をするというのは非常にわかりやすいですし、評価もしやすいと思いました。目標設定の1つ、人口減少の抑制というのはやはり、とにかく非常に大きな問題だと思います。この現象の割合を少しでも減らしていくというのが一番大切なことだと思います。人口減少を抑制していくためには、未来を担う人材である酒田で生まれ育った子どもたちを、いかに定着させるか、そして戻ってきてもらうかというところが大きな課題だと思います。

今年の春の高校生の就職の内定状況を見て、この酒田の県内定着率というのは5割を切る状況、県内の平均を下回っている状況がございました。私が所属する別の団体で、こういった課題に向けて若者の地元定着を考える事業というのを進めておりまして、酒田の光陵高校の今の3年生、367名全員にアンケート調査をいたしました。就職が7割、進学が3割ということで非常に就職の割合が高い結果だったようなのですが、就職希望者238名のうち、就職先は庄内地域とそれ以外で約半々というデータでございました。県外を希望した生徒の最も多かった理由というのは、やりたい職種が地元にないという、これが一番多くて、一方で、地元を選んだ生徒さんの理由、これはダントツで酒田が好きで、この地域に貢献したいという意見が、非常に多かったという結果がありました。その後、高等学校の先生たちと意見交換をさせてもらったのですが、光陵高校は酒田まつりですとか、酒田交流おもてなし市民会議等の活動で、地域での活動を非常に積極的にされております。その先生の話でいきますと、地域の活動に積極的に参加している生徒さんは地元への就職を希望している方が多いということでした。こういったことを考えますと、やはり自分の育った地域を愛する心、郷土愛の醸成というのは教育活動を進めていくうえで、改めて大切なことだと痛感したところでございます。

目標設定の2つ目の市民所得という部分で、将来的なことになるのですが、我々が住む酒

田市は港町、そして商人のまちということでございます。所得を将来的に向上させるためにも、早い段階で子どもたちに商売の教育ができないかなということを前々から少し思っております。以前視察したことがあるのですが、小学校高学年を対象にしたジュニアエコノミーカレッジという、通称ジュニエコというそういった授業があるのですけれど、商売体験をとおして自らが決め、行動して結果を出す体験をさせて、未来の地域の担い手を育成するというものでございます。大体1チーム5名くらいで、模擬株式会社を設立しまして、そこで事業計画、仕入れ、製造、販売、決算、納税まで一連のサイクルを体験させることで販売するだけのお祭感覚ではなくて、商売体験をするという企業教育ということなのですけれど、運営者はそのまちで商売をする大人たち、その地元の大人たちが未来を担う人材を育てる、商人のまちだからこそその連携というような思いがしたものですからお話させていただいたのですが、結果として酒田が好きで、酒田で働きたいという若者が増えて、酒田に住み続けたいという市民の割合が限りなく100%に近づくことが理想ではないかなと思ったところです。

(丸山市長)

総合計画の目標設定についてお話しいただきました。商売教育というのは確かに面白いかなという感じがします。どういうもっていき方がいいのか、後ほど出てくるのでしょうか、キャリア教育推進事業という新たな事業を立ち上げています。これは提案に基づいて、いい提案の学校に対して補助金をつけますよという事業なのですけど、こういったことも面白いと思います。ものづくりというと工業系のものだけに光があたりがちですけれど、そういったものだけでなくキャリア教育という側面から考えると、商売のいろいろな教育・体験を加えるというのは面白いと思いますので、ぜひそういった場で活かしていただければありがたいと思います。企業教育を疑似体験でというのは、高校生ぐらいがいいのかなとは思いますが、中学生でも大丈夫な気はします。体験してもらえるようなそういったアイデアなどが出てくれば面白いなと思いながら聞いておりました。ありがとうございました。それでは岩間委員お願いいたします。

(岩間委員)

資料がとてもよく考えられていて、大綱と総合計画との関連がとても見やすく書いてあると思いました。その中で総合計画についてですが、いいなと思ったのが、みんなで考えよう「わたしにできること」というところで総合計画未来会議における市民の提案をここに書いているのがいいなと思いました。やはり、丸山市長の市民と一緒にこういうまちづくりしていくという考えが計画に反映されているというしっかりとした事実が見えて、酒田市が本当に変わっていきそうだとわくわくするような計画だと思いました。会議に参加してくださる方がちゃんと思いをもって、しっかりお話をされているのですけれど、やはりこうやって一生懸命つくったものを市民会議に参加していない方にも共有していただきたいというところで、とりあげたものを酒田市民にどうやって伝えていくか、思いを伝えていくのが重要だなと思いました。不満を口にするのは、よい施策があっても知らないからなのかなと思いますし、頑張ってるまちづくりをやっているのですということを本当に全員に伝わるような、酒田市の広報などで思いを伝えていく必要があると思います。酒田で暮らすことを選択する若者を増

やりたいということですが、やはり地元を離れて就職した人がいるということは、実際自分も今ここに教育委員として座っていますけど、自分が18歳のときなどはそこまで考えたかなと思うと、そこまで関心はなかったと思います。もっと若いときからまちづくりに関心を持つことを、学校教育の中で、今具体的なものは考えつかないですけど、そういったものを授業の中で、渡部委員が仰られたような楽しい具体的なものがあれば、もう少しまちづくりに関心をもつことができるのかなと思いました。大綱については、具体的にこうした方がよいのではというのは、今は出てこないのですけれど、これを伝えてほしいというのが一番です。

(丸山市長)

合言葉で共に創るというのはあるのですが、皆様が共に創るという意識を徹底するために、いかに知ってもらって理解してもらって、行動してもらおうかというのが必要かと思うのですけれど、そのための手段が、ただ広報に載せたからそれが上手くいくということでもないと思いますので、そういった活動をいろいろなセクションでやりながら、こちらの思いなり、計画の理念なりを浸透させていくという地道な活動が必要かなと思っております。今のお話の中でまちづくりに関心を持つ工夫というのを学校教育の中でどう展開していったらいいのかという話はあったのですけれど、このへんはどうなのでしょう、学校といっても高等学校だったり中学校だったり小学校だったりあるわけですけど、実際そういった工夫というのは組み立てる余地、余地というのは変ですけど、組み立てることが可能だとすればどうやったらそれができるのかなと少し私も考えていたのですが、学校教育課長にまた話を振るようで申し訳ないのですが、小学校、中小学校、それぞれ校長先生が学校経営の責任者としているわけですけど、まちづくりに関心を持つ工夫を学校の授業のカリキュラムの中で、つまり学校差があってはいけないので教育委員会としてこういうメニューでこういう指導方法で、こういう達成目標でというものをつくって、各学校長にお願いするというのは現実問題として可能なのでしょうか。少し聞きたいのですが。

(学校教育課長)

授業の時間と内容としましては、教科、道徳、特別活動、総合的学習の時間、それから小学校になりますと今度外国語が入ってきますけれど、教育課程で組む内容が基本的には法令により定められているということになっております。そういった関係で新たな項目を打ち立てて授業するとなると、やはり許可を得ながら、国の特区などというような呼び方をしているところもありますけれど、または特例の形でやるというような方法もあるのかと思いますが、基本的には学習指導要領の中で義務教育の中で教えなければならない内容というものがあります。ただ、探求的な学習として総合的な学習の時間を使いながら、実際に郷土の学習をしたり地域の学習をしたりというようなことは行われております。ただ、そのところで教育委員会の、私どもの方でこの内容でというような形で総合的な学習の時間に、このテーマでやってほしいというようなところまでなると、教育課程は校長の裁量でございまして、他のものを外してその内容でというような意味合いになると、少し難しい課題になるのかと思います。もう少し時間をいただければ違う方法が考えられるかもしれま

せんが、少し考えてみる時間が必要かと感じます。不明確で申し訳ございません。

(丸山市長)

つい最近浜田小学校に行ってきた、まちづくりの提案について6年生から話を聞いて、酒田のまちについて自分たちが考えていること、実際に回って考えたことを市長にぶつけて、市長が子どもたちの考えにコメントを出すという、なかなかいい会合だったなと思っているのですが、ああいったものが小学校、中学校、高等学校にもあっていいのでしょうか。そういったことが展開できたら、子どもたちに意識を植え付けるいい機会だったなと思って、この間浜田小学校に行ってきたわけですが、あれは授業としてああいったことをやったのですか。

(学校教育課長)

授業だと思います。

(丸山市長)

ああいうのはいいなと思ってるのです。教育委員会の中でそういったものを評価して、他の学校長もそういったものに取り組むという風土をつくってもらえると面白いことになるのではないかなと思っておりました。それでは神田先生お願いいたします。

(神田委員)

先ほど市長からのお話で次期総合計画が4月1日から開始ということで、それにあわせて大綱についても改定をしたいと考えているのだというお話がございましたけれども、基本的には大綱について見直しをしていくというのは賛成でございます、これまでも、十分力を入れて教育を行ってきたと思いますけれど、新しい総合計画ができる中で、改めてさらにできることについて力を入れて取り組んでいこうというような姿勢を見せるというような意味合いでも、大綱の修正すべき点は修正をするのよいと思っております。また、こういった大綱をつくるということにおいて、総合計画の中では今後の方向性であるとかそれぞれ施策について記載をされておまして、とかくそれぞれ施策だけを見てしまいますと、これだけを実現することに目がいきがちになってしまいますけれど、これらをとおして実現したい未来、将来は何なのかというところを、大綱という形でうまく整理をしていただいております、どこに向かって走っていけばいいのかということが非常にわかりやすくなっているのかなと感じました。先ほど大綱の見直しということをお話ししましたが、では、この6項目について良いのか悪いのかということを見た場合に、基本的には上手く整理されているように思うのです。これが酒田市における今後の方向性という整理が十分されていると思いますので、新たに完全見直しでということではないのですけれど、3点これについて意見を述べたいと思います。

1点目は、全く同じ表現のままということではなくて、今回の総合計画の中では、協働というものがキーワードとして入ってきているということになっておりますし、また、基本構想を見ていきますと果敢にチャレンジできる、会話であるとか、いきいきとか、様々なキーワ

ードが入ってきていますので、そういったキーワードを盛り込んでいくような形にしていくことができないかどうかということが一点。

2点目はですね、例えば大綱の1番を見ますと、これは教育の推進ということになっております。ようするに人材育成をしていく仕掛けをつくるというような形になっておりまして、教育をした結果として人材育成ができるかどうかは別として、教育の推進という表現があるわけです。一方で2番については人材育成であるというふうなことで書かれていますので、これでは、1番はアウトプットですね。活動指標として教育をしっかりとしました、2番についてはその結果として人材が育成できたということでアウトカムになってきます。これらがそれぞれ、教育の推進や人材の育成といった表現でよいのかどうか、というところを精査することができるのかなというふうに思っております。特に1番につきましては、公益の心を育み、知・徳・体の調和と「いのち」を大切にすることを推進するだけでなく、いかにこれらをしっかりと身につけていただくかということ。先ほどの総合計画の項目からいきますと、学習意欲を引き出したうえで、しっかりと教育をしてその結果としての学力の部分も見ていくということになりますと、やはり教育をしますということだけでなく、結果としての成果を出しますというところは入れたいというように思います。

それから3点目ですけれど、この6項目とですね、総合計画との関係性を矢印で示していただいて非常にわかりやすくなったと思うのですが、この対応関係を見ていきますと、大綱の1番、2番、3番、それから6番がいわば政策3、学校教育に関わる部分だと思えますが、学校教育が1番、2番、3番、6番、そしてその下の政策4、こちらが社会教育に関連するものだと思いますが、それが5番に繋がってしまっていて、4番については、政策3、政策4もそれぞれ繋がっているというような構成になっております。こうやって見たときに2番というのが、先ほどの渡部委員からの話にありましたけれども、地域に関心を持って、地域の課題に取り組むであるとか、地域との接点を増やしていくことによって地元に対する愛着をもっていったって、今後住み続けたいと思う、そういった気持ちの醸成に繋がっていくのだというお話がございました。先ほど総合計画の後半のアンケートを見ていきますと、酒田市に住み続けたいと思う市民、特に若い人は、必ずしも住み続けたいということだけでなく、移りたいと思っている方々もいるわけです。こういった方々に対して、学校教育で何とか対応していかうというような考え方もあろうかと思いますが、昨今ではU I Jターンも推進しておりますし、転入者もいるわけです。また学校教育だけでなく、学校を出た後でもですね、継続的に故郷の歴史・文化等に触れて、この地域に住み続けたい、地域に対して貢献できるようなそういった人材になっていただきたいというようなことがございますので、政策4と大綱の2番を上手く繋げることができないかどうかというようなことを考えております。そこで、先ほどお話ありましたライブラリーセンターが関連してくるのかなというように思うのですが、ライブラリーセンターを知の拠点にしていくということで、その中では光丘文庫の資料をどう扱うか、これは非常に文化的な歴史的な資産でもあるわけですので、社会教育という観点で見た場合にも、非常に貴重な資料等があるわけですが、それを上手く2番にリンクさせるような形で活用していくことができますと、社会教育と故郷への愛着というところが上手く繋がっていくというように思います。ただ、2番につきましては人材育成ということになっていきますので、仮に例えば2番を2つに分けて、歴史、文化、自然を大切に誇



りと愛着を持ち続けることができるような場作りの設定と人材育成というように、これが2つに分かれるのであれば7項目になるでしょうし、2番が場作りと人材育成いずれも行うということであれば、ライブラリーセンターから2番にのびてくるのかな、そういった点があるように感じています、以上です。

(丸山市長)

はい、ありがとうございます。大変示唆に富んだお話をいただいたと思います。時間の関係もあって、もう少し深く掘り下げたいのですが、次のテーマもあるので、今皆様からいただいたご意見も踏まえて、大綱については、これは市長が策定することになっているので、こちらで素案をつくらせていただいて、またこの場で周知したいと思っております。そのときにまたご意見をいただいて、時期的には4月1日には間に合わないわけですけど、なるべく新年度に入って早い時期に作動するような形で、大綱というのを手直ししていきたいと思っております。項目など、神田委員からありましたけれど、もう少し細分化したほうがいいのかも含めて、少し時間をいただきたいと思っております。どうもありがとうございます。

次に、学校・家庭・地域の連携・協働について皆様よりご意見をいただきたいと思っております。これについては資料もありますが、社会教育文化課長からご説明した後に、ご意見いただければと思います。

(社会教育文化課長)

社会教育文化課長の阿部です。それでは学校・家庭・地域の連携・協働について資料2をご覧ください。まず皆様ご存知のとおりですが、子どもを取り巻く状況については急激に変化してきています。例えば児童生徒の減少、家庭や地域社会の教育力の低下、学校が抱える課題の複雑化・困難化、都市化や核家族化の進行というような子どもを取り巻く状況があります。それに対しまして、現在の本市の主な取り組みにつきましては、社会教育文化課といたしましては、地域人材交流講座ということで、小中学校において地域の人材を活かした学習を展開しておりまして、総合の授業やクラブ活動等で地域の先生として指導をお願いしているところでございます。2つ目といたしまして、学校・家庭・地域の連携推進協働事業としまして、現在宮野浦小学校区におきまして放課後子ども教室を実施しております。地域の方々の参画を得まして、学習や様々な体験・交流活動の機会を定期的・継続的に提供しているところであります。3つ目が地域の教育力向上事業でございまして、地域の特性を活かしました青少年の体験活動や、健全育成に係わる講座などの実施について支援をしているところでございます。最後は赤ちゃん登校日ということで、親の愛情と命の大切さについて学び、将来親になることについての意識の向上を図るとともに家庭教育を支援するというので、小中学校に赤ちゃんとお母さん、お父さんが行くときもありますし、そうやって赤ちゃん和学校の触れ合いをとおして命の大切さについて学んでもらうということをしていただいています。

平成30年度からの新たな取り組みといたしまして、こちらは学校教育課の事業になりますけれど、キャリア教育推進事業ということで児童生徒一人一人がふるさと酒田を愛し、将来

の夢を持ってよりよく生きるための資質と能力の育成を目指していきます。夢を育むためのキャリア教育の推進に繋がる事業をテーマの柱に据えて取り組んでいきます。2つ目が小中高連携ものづくり教室事業といたしまして、光陵高校の専門性豊かな指導と高度な施設・設備を活用し、科学や工学系のものづくりの楽しさを体験できる教室を小中学生向けに開催するものでございます。こうした取り組みを行うにあたりまして、これから大切になってくると思われる学校・家庭・地域の連携・協働の視点といたしまして、3つのことを考えております。1つ目が地域とともにある学校の目指す姿を地域と学校で共有いたしまして、一体となって子どもたちを育む地域づくりの推進。2つ目が地域の様々な機関や団体等がネットワーク化を図りながら、地域全体で子どもも大人も学び育ちあう体制の構築。3つ目が学校と地域が協働で地域の将来を担う人材を育成し、自立した地域社会の基盤の構築を図る地域づくりの推進でございます。今後事業展開をしていくうえで、以上3つの視点を大事にしていきたいと考えておりますので、よろしくご検討願います。

(丸山市長)

はい、ありがとうございます。説明のとおりではあるのですが、端的にいうともっともっと学校教育と家庭教育と地域の関わりを深くしたいという思いがあって、こういう話は、何十年も言われてきている話なのですけれど、今回テーマとしたのは先ほど少し申し上げましたけれども、合併した3地域の皆様と協議をする場がありまして、八幡、松山、平田の旧三町の皆様と意見交換をした際に、平田地域の協議会から、地域協議会で地域のあり方だとか、様々な議論をする際に東部中学校にもっと関わってもらいたいのだと意見がありました。特に松山、平田の関係で、東部中学校が松山の中学校と統合して平田地域にできたということもあり、東部中学校側からすると、平田だけに関わるということではできないという遠慮はあったのかもしれないのですけれど、そんなこともあって、もっと学校から地域の活動とか議論の場に色々参画してもらいたいという声があったので、それでは総合教育会議の中で議論してみましようという話題にさせていただいたところがあります。

それからもう1つは、前回中高一貫校の関係があって皆様からも意見をいただいたところでありましたけれども、光陵高校と小学校、中学校の教育のあり方、市町村の教育委員会と県の教育委員会と所管は分かれるわけですが、地域という視点から見れば教育委員会の違いにこだわる必要はないのではないかなというなかで、小中高と授業展開の中で共同して取り組める、渡部委員からもありましたけれども、地域を愛する、郷土を愛する心の醸成なんていう話を中学校と高等学校で分断する必要はないわけで、一貫してそういった活動が、あるいは地域としての働きかけがそれぞれ学校にあってもいいのではと、30年度よりキャリア教育推進事業という市独自の事業としてこういったことを支援したいと思っております。キャリア教育というとどちらかと言えば就職を意識したものです、だから地元への愛着、地元の企業を愛するということでもいいかなと思います、そういった事業を各学校から提案をしていただいてそこにお金をつけて活動が行えないものかなということでしたし、小中高連携ものづくり教室事業については、先ほど浅井先生からもありましたけれども、中村ものづくり事業から発展にして光陵高校の専門性と小学校、中学校の地元に残るといふ郷土愛の醸成というものを結びつけて、ものづくり人材を増やすというところでこれは光陵高

校の工業科、1クラス削減という動きに少し待ったをかける意味で、我々が県教委に対して提案する形でもっともっとものづくり人材を増やす努力を行政としてもしますよということを示した形でこの事業を進めさせてもらったわけですが、そういったことも含めて、これまでの動きやこれからのあり方について少し皆様からもご意見をいただければなと思ってテーマにさせていただきました。これについては、神田先生からご意見をお聞かせいただければなと思います。

(神田委員)

はい。まず、次年度からキャリア教育推進事業を実施されるということで、非常に貴重な取り組みだと考えております。キャリアと申しますと、先ほどお話ありましたとおりワークキャリアということで、どのような仕事をするかという観点もございまして、一方でもう少し幅を広げますとライフキャリアというような考え方もあります。ライフキャリアということだと、どの地域で暮らしていつごろ結婚して子どもはこれぐらい欲しいとかですね。そういったところまで含めた大きな話になってくると思うのです。この地域に対して愛着を持っていれば、勿論住み続けたいということになるでしょうし、愛着を感じることができていないのだとすれば、ここで住んで暮らしてというイメージができないのだと思います。総合計画の中で先ほど申し上げましたけれど、アンケートの結果を見ますと二十代から四十代でこの地域に住み続けたいという方が若干少ないというところが気になっておりまして、世代としては子どもの親世代ということになっております。親の影響というのは非常に強いと思いますので、子どもたちに対して、家庭でこの地域に住み続けでは駄目よという、そんな話がでてしまうと、どうしてもここにいたいんだというような気持ちを持ち続けることは難しいのだと思うのです。ですのでそういった意味合いで、これからの学校・家庭・地域の連携の視点の2項目目として、地域全体で子どもも大人も学び育ちあう体制の構築ということで、ここに大人を入れていただいたというのは非常にありがたいですし、重要な視点だなというように思っております。ですので、対象とするのは子どもたちだけでなく、子どもたちへの教育、そして親世代に対してインプットをどう増やしていくかというようなところもしっかりと考えていく必要があると思います。あまり具体的にどうしたらよいかということを考えているわけではないですが、地域との連携ということを進めていくにあたって、各学校と地域の連携はしていると思いますし、今後いろいろな形で推進をしたいという気持ちはあるのだと思います。ただ学校の制約として45分ですとか単位時間の制約があるので、その時間の中でできるプログラムでないとなかなか実施が難しいということがあります。私の専門の交通分野でいきますと、交通安全教育というのを学校でどうやるかというのを考えたときに、ニーズはあっても45分でできますよというプログラムをつくってそれを提案してあげないとできないですよ。逆に提案してあげると、それではお願いしますというような形になることもありうるので、地域に関して学習していくプログラムというのを地域の側から発信していくというやり方もあると思うのです。地域で熱心に活動されている方がいらっしゃると思うので、単に協力しますよということだけでなくこういう形であれば45分でできます、50分でできますというようなプログラムがあるとよいのかなというように思いました。

また、せっかくですのでこのお話を伺っていて、少しわかりにくかったのは、展開の目的です。この連携を通して何を実現したいのかということ、明確に設定することができれば目標値が定まりますので、PDCAも上手くまわっていくと思いますので、郷土愛を育むというようなことでもよいと思いますし、地域における回数を単に増やすということでもよいと思います。せっかくの事業ですので、目標設定をしながら上手くPDCAを回すとよいなということで期待をしております。中身に踏み込んだ発言でなくて申し訳ございません。

(丸山市長)

いえいえ、非常に参考になりました。ありがとうございました。ここがこういうデータということですので、親世代が変わらないと子どもも変わっていかないのかと思います。事前にこの話を聞いたとき、学校の先生と同じように社会教育には社会教育主事という資格があるのですが、以前教育長ともお話ししたのですが、福島県あたりは、教頭先生になるためには、社会教育主事の資格がないとなれないという制度設計になっているのですが、山形県はそういったことはないのです、やはり学校の先生というものは、地域と学校、コミュニティスクールという概念とはまた少し違うんでしょうけれど、学校が地域と深く関わることからすると、社会教育というものについても一定程度知識、造詣が深い方が学校教育の現場にいるという、そういった仕組みがつくられていく地域であれば、もっと機能するような教育体制がとれるのではないかと思ったりしていたところです。先生方は子どもだけでなく親も教育しなければならないというのも大変ですが、あってもいいのかなと思った次第です。それでは続いて、岩間委員何かございますでしょうか。

(岩間委員)

地域連携という課題ですが、私も普段地域にいる時間というのが、朝早く会社に行くと、会社から遅く戻ってきて、家にいるのはお休みの日だけと、なかなか平日はそうできない中で地域にどう関わるか、大人になってからはとても機会が少ないのかなと思って反省しているところです。そういったなかでも地域の住民として関わるというタイミングは、私の中では子どもをとおしてというのがとても大きくて、嫁いで学区は同じ小学校区ではありますが、嫁いだ後にその周りの人と仲良くなる時というのは、やはり小学校とか自治会とか小さなコミュニティ、そして同じ学区としてのいろいろな行事に行くなかで少しずつ顔を覚えてもらって馴染んでいくというのが、重要なと思います。子どものいらっしやらない方もいるわけですが、折角そのような機会があるのだとすれば、そういったところにどんどん住んでいる者として協力して出て行って、いろいろな活動に親としても子どもをとおして関わってほしいというのが、1つの大きな要素になっていくのではと思いました。子どもが中学校を卒業してしまうので、またそういったところから少し離れてしまいますけれど、今はこういった立場があって少しずつまちづくりの活動をしたり、いろいろと機会をいただいたりということはあるのですが、私と同じように、子どもの手が離れたお母さんたち、お父さんたちがもっと活躍できる場をどうやってつくったらいのかなということも考えていきたいです。この話とは遠いようで近いようでいいですか、先日、個人的にSNSの中でつながっている方の投稿を見て、今日この場でぜひご紹介したいということ

で、その方からご了解いただいたので、私の話ではないのですけれど、この場をお借りいただけたらと思い、プリントしてきましたので読ませていただいてもよろしいでしょうか。

(丸山市長)

はい。

(岩間委員)

その方は、女性の方なのですけれど、今日は酒田光陵高校、酒田一中、松陵小学校のPTA三役が集まって1回目の丘の上の学校PTA三役懇親会でしたというような内容でした。その中でコミュニケーションをして楽しかったよというような投稿があったものですから、その中にタグ付けされてた方に直接連絡を取って、どうやってこうやって集まったのか少しそっと教えていただけますかということで、聞いたのです。そうしたら丁寧に返信いただきまして、「おはようございます、ご興味を持っていただき光栄です。きっかけは、光陵高校様からのご連絡でした。昨年の夏前に、地域に集う学校の代表が集まり意見交換と懇親を深めようという趣旨のもと、各学校の三役が集合しました。地域柄もあり小学校から一緒に役員をしてきて、顔なじみがたくさんいたこともありスムーズに集まることができました。私は松陵、一中に娘がお世話になりました。来年受験で光陵ではないため、先日が最後となりましたが、引き続き交流や意見交換ができる会として活動していただきたいと思います。部活もそうですが、小学校のスポ少と中学校の部活も繋がりが大切だと思います。あの先輩がいるからまた一緒に頑張りたいと思えるような繋がり、同じようにご父兄がいる親御さんと、以前は先輩役員でいろいろ教えていただいた方が、下のお子さんの学年で再度登場したりと小中の繋がりは長くて、本当にたくさんのことを教えていただきました。そこに光陵高校様ที่加わったことで、新たに他学区の方とも繋がりました。実は幼稚園が一中学区だと完全に初めての方は少なかったり、長くなりましたが、私もUターン組でして娘をとおしてこのような繋がりを持たせたことを改めてありがたく思うところがございます。」ということで、原文のまま読ませていただきましたけれども、ぜひ紹介してくださいということでこの場にお持ちさせていただきました。とかく初めてのところにはなかなか馴染みがなく、緊張しますし行きにくいと思うんですけど、このような場を、松陵の先ほどの冒頭の、PTA三役をしたこと経験だとかが今にこうやって繋がってきているわけです。これは松陵のモデルケースとして、他の学区でもこのようなことが行えれば、卒業した後も地域に関心を持って、まちの子どもも、自分の子どもはもう大きくなったけれど、今の小学生の子どもたちに関わっていけるような、地元に対する関心を深めるものとしても、有効なのかなと思いました。

(丸山市長)

わかりました、ありがとうございます。丘の上の学校ですか。私は初めて聞きました。教育長は知ってましたか。

(村上教育長)

知っておりました。そのように呼び合っているというのも、もう少し違う名前もあって、

違う呼び方も聞いたことがあります。

(丸山市長)

わかりました、ありがとうございます。学校を卒業した方が、地域と関われるプラットフォームというか、そういったものも必要と思います。コミュニティ振興会がそういった機能をはたしてもらえるといいんですけど、そこは少し別のルートで私も働きかけをしてみたいと思っております。それでは、渡部委員お願いします。

(渡部委員)

私の住んでいる学区というのが、松原、三中学区になりまして、他の地域に比べると割と新しい住宅地というか賃貸住宅が多くて、若い世代の世帯の比率が高いということもありまして、学区の子どもの数というのがあまり減ってないように思うんですけど、私が住んでいるその学区の古いまち、歴史の数百年続く古いまちだと、同居世帯が減少してきておりまして、それに伴って子どもの数も相当数減っております。ただまちには神社とか子どもたちが主体となるまちのお祭りみたいなものがあるのですが、これがままならない状況になっております。まちの人たちも皆頭を悩ませている状況であります。ただ、この状況というのは、うちのまちだけでなく他の地域でも同じように悩んでいるまちがあると思うのです。まちの伝統を後世に伝えていくというためには、これからはまちとか自治会とか子ども会とか、そういったくくりを越えた連携も考えていかなければいけないのかなという難しい問題があると思いました。

2つ目は今年非常に雪の多い年です。道路の除雪は、行政、除雪業者の皆さまのおかげで不便なく活動できていますけれど、私の近所を見ても、自宅の敷地内の除雪というのが非常に大変です。古いまちは特に敷地が広いもんですから、高齢者だけの自宅の除雪というのは本当に大変な状況です。ですから、こういうときだからこそ、先ほどから出てますけれどコミュニティの協働とか共助とか、そういったところの大切さというのもこの雪の中で痛感するなと思っておりました。

最後にもう一点ですが、キャリア教育の部分です。地域の企業が参加して支えるキャリア教育、中学生の職場体験学習というのがあってずっとやっております。生徒たちが学ぶことですとか、働くことの意義を理解し望ましい勤労観ですとか職業観を育成するという非常に大切なこともありますし、生徒が将来の進路を選択する意識、意欲を培う大切な教育活動だと思っております。私の会社でも最初は地域貢献という意味合いで受け入れていましたが、受け入れているうちに、企業側にも別の視点が生まれてきたように思います。1つは子どもたちをどう教育するかということ、そのときに担当する社員を指名するのです。その社員が自分で考え行動させることで、社員教育に繋がるという側面。それから、社員の業務内容に近い作業を実際にさせていただいたりだとか、観察してもらうことで自分の会社のアピールにも繋がっていく、次代の人材としての育成にも繋がる可能性があると思っていました。実際にここ10年くらい積極的に受け入れるようにしているのですけれど、うちの会社に来てくれた生徒さんの中で我々の業種に興味を持ってくれて、高校卒業後に生花専門の学校に入ってそこで学んで、インターンシップのお願いの連絡が来ました。中学校のとき職場体験させて

もらったなんとかですみたいな感じで、非常に嬉しくてぜひぜひ来てくれと、夏休みでしたか1か月くらいうちの会社にインターンシップをしてもらいまして、当然うちの会社に来てくれるかなと思ってたんですが、残念ながら都会の同業者にそのまま就職してしまいまして、まあ業界考えればよかったかと、次があるかと思ってて、そうしたなか去年、うちの近所の子で職場体験に来てくれて、そのときやはり興味を持ってくれたんでしょう、希望してうちの会社に入社してくれました。今元気に働いています。非常にまたこの流れが続いていけばいいなと今思っているのです。他の会社の状況などを知り合い、いろいろな仲間に聞いてみるとやはり腰が引けている企業がすごく多い感じがします。難しい業種はあると思います、危ないとか、あると思うのですが、企業側も今非常に深刻な人手不足の状況です。ですから今後は、さらに人手不足というのは悪化するということも予想されますので、人財、財産の人財ですね。これに対する考え方については、企業側も変わらなければいけない。そういった流れになればと思っています。職場体験を積極的に受け入れたい企業はあるのです。港の方にある大きい工場、会社、ぜひどんどん来てもらいたいという思いはあるようなのですが、いかんせん学校からとか、住んでいるところからかなり遠いものですから、そういった原因があつてなかなか行けない、来てもらえないという状況があるというようなことも工場長さんから聞いたことがありまして、このマッチングに何か工夫ができないかなと前々から思っておりましたので少し話をさせていただきました。子どもたちを預かる責任というのは非常に大きいのですが、学校とか地域の企業が一体となってこの地域の将来を担う人材を育成していくことというのは、やはり地域づくり、地元への愛着、定着に繋がっていくのではないかと考えております。以上です。

(丸山市長)

はい、ありがとうございます。たしかに企業側への働きかけというのは、これは教育委員会というよりは、我々の産業関係部局の役割というのも、考えていかないといけないかなと思いました。やっているのですけれど、もっともっと強めていかないといけないかなという感じでお話を聞いておりました。それでは、浅井委員お願いいたします。

(浅井委員)

東部中学校の件からですが、統合した学校はやはり同じような問題を抱えているのだなと思いました。以前、上田小学校と本楯小学校が統合したとき、鳥海小学校ができたわけですが、どちらの学校の地域でも同じように行事が残っているのですよね。その行事に公平に行こうとすると2倍の労力がかかるわけです。2校が1校になって先生方の人数が半分になったのに、旧学校の2つの行事に先生方が行かなければいけないということで大変苦勞したと、そんな話を聞いたことがあります。やはり東部中学校でも同じようなことがおこっているわけです。旧松山町と旧平田町だったわけですから、そういった行事にも参加しなければいけないということで、学校としても出たいのだけれど人数的にも出れないところもあって、苦しんでいるだろうと思ったところでした。今の松山小学校でも同じものを抱えてるんだろうと思います。

酒田市で地域連携というと、インテリジェントスクール構想ということで始まった南遊佐

地区を思い出すわけです。保育園と小学校と、それからコミセンが一緒になって建物も一緒になっているわけだったので、非常に連携が上手くいってマイ夢の里構想ということで多様な行事をやって、地域連携の見本、酒田市の見本みたいな形でもって取り組みをやって、その成果が酒田市の他の地区の学校にも、広く浸透していったあの頃は本当に地域連携といったことを、酒田市のどの小中学校でも一生懸命取り組んだという思いがあります。ただその後、だんだんと熱が冷めたというのかどうかかわからないですけど、あの時ほどには学校も地域も地域連携に取り組んでないなということを感じているところなんです。

また、以前の話ですが、学校に学校評議員制度が導入されました。外部の有識者等が年何回か集まって学校の運営に対していろいろと意見し、その意見をいただきながら学校を変えていこうというような、そんな試みだったと思うのですが、それで少し学校も変わるかなと思ったわけですが、今となってはそんなに大きな成果も見られていないのかなと思っています。今日の資料を見ると、これからの家庭・学校・地域の連携・協働といったようなことでは、いろいろな事業や活動を実施していきましょうというようなことが書いてあるのですが、勿論そういったことも大切なことだと思うのですが、今一番学校が中心となって地域連携、家庭との連携といったようなことを図っていくためには、先ほど市長も仰ったコミュニティスクール、あの構想あたりが一番の見本となるのではないかなと思っています。一昨年、教育委員が三鷹市の教育委員会と、三鷹市の小学校を視察したときに、名目は小中一貫の視察だったのですが、三鷹市はコミュニティスクールをもとにした小中一貫教育ということで非常に複雑なことをやったんですね。コミュニティスクールといった基盤をやって、更にその上に小中一貫といった教育が被さっているのです。そのような三鷹市を訪問させてもらって少し勉強をさせてもらったところでした。それから遊佐町あたりではもう既に遊佐小学校がそういったことを始めているというような話もあります。それから更にその北の由利本荘市が全国的にも有名なコミュニティスクールの実践、先進地区のようでしたけれど、こういうのを見てみると、教育委員会だけでなく市長部局と一緒にあって、コミュニティスクール構想を進めてるといったような、そんな動きもありました。ですから、よく酒田にコミュニティスクールをとったような話になると、いや酒田あたりは地域連携が上手くいってるから、あえてコミュニティスクールなんて導入しなくてもいいのではという意見が聞かれるのでしたけれど、コミュニティスクールにはコミュニティスクールの良さとか、単なる地域連携とは違った考え方があるようなので、導入しなくてもそういったノウハウを勉強して我々が取り入れていくことも、これからの酒田市の家庭・地域・学校との連携のうえで大事なことではないのかと、そのように思いました。

(丸山市長)

わかりました、ありがとうございます。コミュニティスクールは、庄内にはないのですよね。小国の方、置賜の方にあるのでしょうか。少し見聞きしてみたいなという思いはありますけれど、先ほど渡部委員からもありましたけれど、企業とか地域とかいろいろな方を絡めて、後で言おうかと思っていたのですが、学校評議員という仕組みがあって、それが上手く回れば学校とか地域とか企業というのがうまく連携が取れるのかなという思いも、少し持っていたりはしたのですが、今なかなかそこまでいってないとすると、学校評議



員制度は小学校と中学校それぞれあるのですよね。高等学校にもあるのでしょうか。そうしたときに、その3つの学校評議員をどう結びつけるのかというのも、松陵と一中のように隣接していれば、基本的に問題ないのかもしれないですけど、学区がずれていたりするとそれもまた複雑ということで、コミュニティスクールの仕組みも含めて、地域がもっと関われる、あるいは企業がもっと関われるような、そういった学校評議員なのか、神田先生が東北公益文科大学なので、理事長がいて学長がいてという組織であります。学校にも理事長が地域の人で別枠でいて学校長と一緒に動くといったようなそういった学校の運営システムみたいなのがつくれたら面白いのかなという感じはするのですけれど、現状ではなかなかそういった制度化には至っていないわけですので、参考に勉強するいいきっかけにしておりました。ありがとうございました。すいません、もっとお話しを聞きたいところですが時間もないので、最後に私のまとめというよりも、村上教育長から最初のテーマである大綱の件や、学校・家庭・地域の連携・協働の件を含めて、少しコメントを頂戴して締めにかえたいと思いますので、村上教育長よろしくお願ひします。

(村上教育長)

教育委員会の例えば勉強会などでも、いろいろ話し合いをするのですけれど、非常に大きいテーマについてこれほど教育委員の皆様から意見を伺える機会というのはなかなかなくて、本当にありがたい機会だなと意見を拝聴していて思ったところです。後の方のお話から先にさせていただきますと、まず、学校・家庭・地域の連携・協働についてというテーマですけど、教育大綱の4番に掲げられている重要なテーマでした。そのことについては、大綱でも進めようとしておりますし、教育委員会でも進めようとしていることなので、ぜひ継続してといいますか、時々この話題を総合教育会議で取り上げていただけませんかというのが市長へのお願いというか、1つになります。非常に大きなテーマとっております。

もう1つは、冒頭私もあいさつの中で言いましたけれど、社会教育関係との連携も実はありますので、社会教育委員の方からも一方で考えていく1つの大きなテーマになるのかなと思うのです。このたび、地域の教育力向上事業は、それぞれのコミセンに総額配当になりました。地域の教育力向上事業は1コミ振あたり30万円程度ですけど、それが25コミ振分ございます。そうすると地域の教育力という、そういったことについて、これから総額になった場合、加算ということですけど、どのようになっていくのか、学校との連携でどういう地域をつくろうとして、それをどういう人材を地域の教育力としようかという、人材を育てるために地域の教育力を使うかとか、そういったようなことを真剣に考える場でもあると思いますし、そういった意味では市長部局ともしっかり連携をとって考えていきたい重要なテーマとっているところです。

コミュニティスクールの話もありましたけれど、なんと言いましようか、あえて2つに分けますけれど、学校をよくするために地域の力をどのように活用していくか、応援していくかという発想、それはずっとあると思います。それについての行政的な施策は県でも教育プラットフォームなどたくさんの施策のプランを出しており、まずそれに乗れるかどうかという話があると思うのですけれど、ただ、忘れてならない発想は、反対側に地域全体を支えていくために学校の力、生徒の力、子どもたちの力をどうやってそこに組み込んでいくか、例

えば三中もそうですけれど、三中は地域をよくするためにむしろ学校や生徒の力を借りているわけですし、地域を子どもの学ぶ場にしてしまっているわけです。それは上からものを教えるのではなくて、活動の場をしっかりと用意して、そこを生徒が、子どもたちが育つ場にしていく。そういった方向で一緒に考えていくという意味では、コミュニティスクールのような発想とまた別の発想として考えられないのかなと思います。すぐに立派な形ができなくても、今市長がお話ししましたとおり、例えば統合があった学校などについては、地域が広いために、コンセンサスをつくりながら物事を進めていくというのが特に必要な時期でないかなと思いますので、このことについては、統合が行われた学校あるいは行われそうな学校だとか、そういった意味でも考えていきたいと思ったところです。

それから、大綱についてなのですけれど、そもそも大綱ができた意味というのは、一方で教育振興基本計画があって、それをそのまま大綱にしてしまっているエリアもあるわけです。でも、酒田市ではそうはしなかった。なぜ市長が大綱として独自に項目を掲げたかといえば、やはり酒田の特色と施策をここで実現しますという方向を示していると思うのです。そうしますと、実現すべき、したいものが、やりたいことがちゃんと裏側にあると、その全部とは言いませんけれど、その一部を市の予算を使って執行するという覚悟がやはりあってつくられているというのがつくづく感じられます。ですから、酒田の特徴や強みをこの大綱で説明しながら進んでいくと、そういったこととしては非常に重要なこととっておりました。今回は新たな視点もございまして、そこには実現したいことは何なのかということを探っていく、そういった話し合いをこれからも総合教育会議でも大綱についても改定し、改定したならば、またそこで具体的に上げていただくと大変ありがたいというお願いばかりなのですけれど、その際私としては、教育予算というのは莫大な予算をつけているわけですが、特に注目したいのがソフト事業なのです。学校を新しく建てるとか建て替えるとか修繕をすとか、あるいはスポーツ施設をどのようにしていくか、大問題です。文化施設をどうするか、億単位の予算が動くわけですが、それはそれで非常に環境を整えるのに重要なことなのですが、しかし、この大綱を実際に実行しよう実現しようとする、実はソフト事業も非常に重要で、例えばライブラリーセンターの企画ということについて、どのような企画がありえるのか、そのための人材、例えば助言者を引っ張ってくるあるいは運営委員会を開くなど、その人の力でもって夢を実現していくようなそういったソフト事業への財産の投入です。人材を含めて、それをしっかりと一緒にやっていければいいなという夢を持っています。今でもソフト事業はあるのですけれどソフト事業のレベルを高くするということです。しかも継続的な事業の発展を狙うということです。単発ではなく、そういった事業のあり方、鶴岡市の例も大学との連携とか先端研などもありますけれど、戦略的なわけです。戦略的に継続的にソフト事業を立ち上げるということの意味の大きさを、やはり酒田でも強みを活かしてどう立ち上げるかということをやりたいなと、そこに力をより集めて酒田も子どもを育てていくというような形をぜひ実現していきたいし、そのような大綱、たくさん夢が詰まっている大綱にしていきたいと、そのような願いを持っているところです。ですので、また、大綱についても引き続き新年度に議論というか、お話を市長から聞いていただければありがたいということを申し上げて終わりにいたします。

(丸山市長)

ありがとうございました。本当に今日のテーマについては、引き続き会議の中で取り上げていくようにしていきたいと思います。ちなみに先端研の富田所長にも、先端研は鶴岡だけのものではないんだからと、酒田にも絡んでよということを書いて随分喧嘩をふっかけた記憶が、去年の暮れにあったかなという思いがしていましたし、鶴岡高専の校長先生にももっともっと酒田と、鶴岡にあるから鶴岡だけということではなくて、もっと庄内全体の、特に酒田は工業人も多いので、酒田からの進学者が一番多いのではないかと思ったりもしたので、我々も積極的にアクションを起こすのでという話をさせていただきましたので、そういったことも含めて市長部局としても、教育委員会と手を取り合って頑張っていきたいというところでございます。本当に時間が短くて申し訳ないのですが、今日は持ち時間過ぎてしまいましたので、この程度にさせていただいて、また、平成30年度引き続き様々な意見交換の場でお話させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

#### 4 閉会

(企画管理課課長補佐)

長時間ご協議いただきましてありがとうございました。これをもちまして、平成29年度第3回酒田市総合教育会議を閉会いたします。どうもありがとうございました。